

## 公共交通施策（案）

項 目		市の負担額の試算結果
タクシー 助成券	①75 歳以上の方へ配布した場合	1,862 万円
	②65 歳以上の単身高齢者へ配布した場合	755 万円
	③65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員へ配布した場合	1,896 万円
	④鉄道を利用して通学する学生へ配布した場合 （平成 29 年度 1 日当たり通学定期乗降者 1,533 人）	試算のためにはニーズの把握が必要
乗合自動車	⑤鉾田市乗合自動車と同様に導入した場合	4,364 万円
	⑥一般タクシー車両と併用して導入した場合	340 万円～2,965 万円
⑦地域が運営する移送サービスを導入し、支援を行う場合		初年度 530 万円
⑧病院や商業施設と連携した移送サービスに支援する場合		運行費用の差額又は半額
⑨コミュニティバスを導入し、運行した場合		18,365 万円

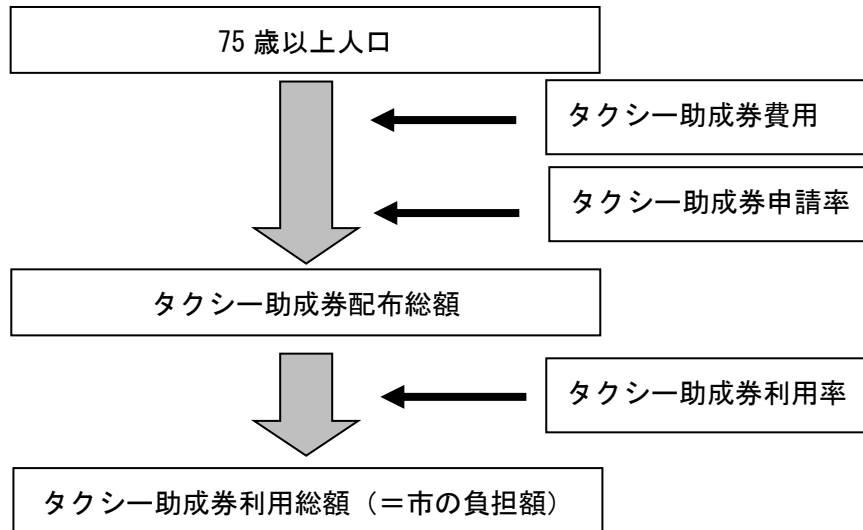
## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### 費用シミュレーション

#### ①タクシー助成券を75歳以上の方へ配布した場合の試算

下図のフローに基づき、市の負担額を試算する。

<タクシー助成券を75歳以上の方へ配布した場合の試算フロー>



#### （ア）75歳以上人口

配布対象者を75歳以上の方とする。

75歳以上人口は8,055人である。住民基本台帳からH30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計した。

75歳以上人口
8,055人

（参考：各種人口の地区別の人数）

（単位：人）	65歳以上人口	75歳以上人口	65歳以上の高齢者単身世帯数	65歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員数（単身世帯含む）
合計	16,211	8,055	3,266	8,203
旭地区	3,206	1,553	540	1,284
鉾田地区	8,159	4,022	1,468	3,878
大洋地区	4,846	2,480	1,258	3,041

出典：住民基本台帳（H30.10.1時点で抽出し、年齢要件はH31.4.1で集計）

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （イ）タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に 500 円のタクシー助成券を 1 人あたり年間 48 枚配布と設定する。また、潮来市を参考にタクシー助成券申請率を 30%と仮定すると、配布総額は 5,800 万円になる。

タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚 数	75 歳以上 人口	申請率	配布総額
500 円	年間 48 枚	8,055 人	30%	5,800 万円

(2,417 人分)

### （参考：他市のタクシー助成券の配布枚数）

	タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

### （参考：他市のタクシー助成券の申請率）

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

### （ウ）市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 1,862 万円となる。

配布総額	タクシー助成券利用率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
5,800 万円	32.1%	1,862 万円

### （参考：他市のタクシー助成券の利用率）

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

### （エ）課題

- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円の割引となるため、自己負担額が大きい。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

- ・駅にはタクシーがいるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性やPRの方法等によって申請率や利用率は変動する。
- ・配布対象の条件を年齢で区切ると、移動の支援を必要とする 75 歳未満の方へ対応できない。

### ②タクシー助成券を 65 歳以上の単身高齢者へ配布した場合の試算

①と同様のフローに基づき、市の負担額を試算する。

#### （ア）単身高齢者数

配布対象者を 65 歳以上の単身高齢者とする。

65 歳以上の単身高齢者人口は 3,266 人である。住民基本台帳から H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計した。

65 歳以上の単身高齢者数
3,266 人

（参考：各種人口の地区別の人数）

（単位：人）	65 歳以上人口	75 歳以上人口	65 歳以上の 高齢者単身世帯数	65 歳以上の高齢者の みの世帯の世帯員数 （単身世帯含む）
合計	16,211	8,055	3,266	8,203
旭地区	3,206	1,553	540	1,284
鉾田地区	8,159	4,022	1,468	3,878
大洋地区	4,846	2,480	1,258	3,041

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

#### （イ）タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に 500 円のタクシー助成券を 1 人あたり年間 48 枚配布と設定する。また、潮来市を参考にタクシー助成券申請率を 30%と仮定すると、配布総額は 2,352 万円になる。

タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚 数	単身高齢者数	申請率	配布総額
500 円	年間 48 枚	3,266 人	30%	2,352 万円

（980 人分）

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

（参考：他市のタクシー助成券の配布枚数）

	タクシー助成券 の金額	1人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

（参考：他市のタクシー助成券の申請率）

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

（ウ）市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 755 万円となる。

配布総額	タクシー助成券利用率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
2,352 万円	32.1%	755 万円

（参考：他市のタクシー助成券の利用率）

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

（エ）課題

- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円の割引となるため、自己負担額が大きい。
- ・駅にはタクシーがあるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性や P R の方法等によって申請率や利用率は変動する。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### ③タクシー助成券を 65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員へ配布した場合の試算

①、②と同様のフローに基づき、市の負担額を試算する。

#### （ア）高齢夫婦世帯数

配布対象者を 65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員とする。

65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員は 8,203 人である。住民基本台帳から H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計した。

65 歳以上の高齢者のみの世帯の世帯員数（単身世帯含む）
8,203 人

（参考：各種人口の地区別の人数）

（単位：人）	65 歳以上 人口	75 歳以上 人口	65 歳以上の 高齢者単身世帯数	65 歳以上の高齢者の みの世帯の世帯員数 （単身世帯含む）
合計	16,211	8,055	3,266	8,203
旭地区	3,206	1,553	540	1,284
鉾田地区	8,159	4,022	1,468	3,878
大洋地区	4,846	2,480	1,258	3,041

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

#### （イ）タクシー助成券配布総額

潮来市と同様に 500 円のタクシー助成券を 1 人あたり年間 48 枚配布と設定する。また、潮来市を参考にタクシー助成券申請率を 30%と仮定すると、配布総額は 5,906 万円になる。

タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚 数	高齢者のみの 世帯の世帯員 数（単身世帯 含む）	申請率	配布総額
500 円	年間 48 枚	8,203 人	30%	5,906 万円

(2,461 人分)

（参考：他市のタクシー助成券の配布枚数）

	タクシー助成券 の金額	1 人あたり配布枚数	対象者の条件
潮来市	500 円	年間 48 枚	75 歳以上の運転免許非保有者
鹿嶋市	730 円	年間 24 枚	70 歳以上の運転免許非保有者
八街市	500 円	年間 48 枚	65 歳以上の運転免許非保有者

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

（参考：他市のタクシー助成券の申請率）

	対象者の人数	申請者数	申請率	備考
潮来市	2,270 人	700 人	30.8%	
鹿嶋市	6,625 人	2,800 人	42.3%	対象者の人数は推計値
八街市	7,580 人	1,505 人	19.9%	

（ウ）市の負担額

潮来市と同様にタクシー助成券の利用率を 32.1%と仮定すると、市の負担額は 1,896 万円となる。

配布総額	タクシー助成券利用率	タクシー助成券利用総額 ＝市の負担額
5,906 万円	32.1%	1,896 万円

（参考：他市のタクシー助成券の利用率）

	年間配布枚数	年間使用枚数	利用率	備考
潮来市	33,600 枚	10,800 枚	32.1%	
鹿嶋市	63,082 枚	38,884 枚	61.6%	対象者の人数は推計値
八街市	30,424 枚	13,307 枚	43.7%	

（エ）課題

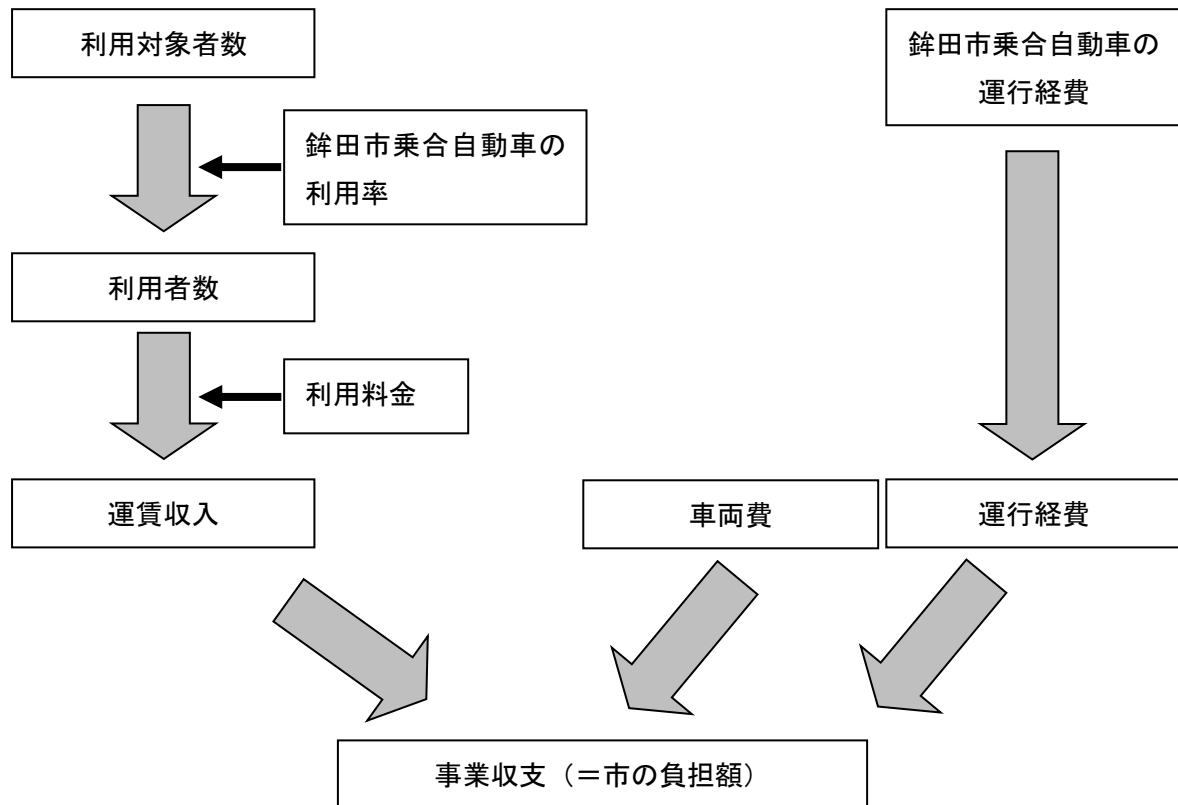
- ・自宅からの利用だと迎車料金がかかり、タクシー助成券が 1 枚しか使えないと 500 円の割引となるため、自己負担額が大きい。
- ・駅にはタクシーがいるので、駅から目的地への移動時に利用してもらうことも検討する必要がある。
- ・自己負担額を抑えるために、複数人で利用することも検討してもらう必要がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・地域特性やPRの方法等によって申請率や利用率は変動する。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### ⑤乗合自動車を銚田市乗合自動車と同様に導入した場合の試算

大洋地区で運行している銚田市乗合自動車と同様に、タクシー事業者に委託する方法で乗合自動車を旭地区と銚田地区にも導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき試算する。

<乗合自動車を導入した場合の試算フロー>



## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （ア）利用者数の試算

銚田市乗合自動車の対象区域の 65 歳以上人口あたりの年間利用者数の率（％）（以下、利用率と記載。）は下記の通りである。

銚田市乗合自動車の 対象区域の 65 歳以上人口	銚田市乗合自動車の利用者数		利用率
5,503 人	H26 年度	5,114 人/年	92.9%
	H27 年度	6,372 人/年	115.8%
	H28 年度	5,934 人/年	107.8%
	H29 年度	5,618 人/年	102.1%

出典：H27 国勢調査の 500mメッシュデータ

これまでの利用率を参考に、今後の利用区域の拡大や利便性の改善による伸びを加味して利用率を 110%と想定し、全市の 65 歳以上人口に乗じて試算すると、年間約 17,833 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 72.5 人である。

（単位：人）	65 歳以上人口	利用率	年間利用者数	運行日数 （平日）	1 日あたり 利用者数
旭地区	3,206 人	110%	3,527 人	246 日	14.3 人
銚田地区	8,159 人	110%	8,975 人	246 日	36.5 人
大洋地区	4,846 人	110%	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	16,211 人	110%	17,833 人	246 日	72.5 人

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

### （イ）運賃収入

利用料金を現況と同じ 1 回 300 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 535 万円となる。

	年間利用者数	利用料金	年間運賃収入
旭地区	3,527 人	300 円	106 万円
銚田地区	8,975 人	300 円	269 万円
大洋地区	5,331 人	300 円	160 万円
合計	17,833 人	300 円	535 万円

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （ウ）車両費

新たに旭地区と鉾田地区で運行するため、車両の確保が必要となる。現在大洋地区では 3 台で運行している。さらに旭地区に 3 台、鉾田地区に 5 台を追加し、全 11 台での運行を想定する。

車両はワゴン車を想定し、1 台あたり 600 万円で 5 年償還を想定すると、年間 1,320 万円/年となる。

1 台あたり車両費 (仮定)	購入車両数 (仮定)	償還年数 (仮定)	年間車両費
600 万円/台	11 台	5 年	1,320 万円/年

### （エ）運行経費

現況の鉾田市乗合自動車の委託料と利用者数から算出した 1 人あたり運行経費は、2,007 円/人である。

鉾田市乗合自動車の委託料 (平成 29 年度)	鉾田市乗合自動車の利用者数 (平成 29 年度)	1 人あたり運行経費
11,275,200 円/年	5,618 人/年	2,007 円/人

各地区の年間利用者数に、1 人あたりの運行経費を乗じて年間運行経費を算出すると、3,579 万円となる。

地区	年間利用者数	1 人あたり運行経費	年間運行経費
旭地区	3,527 人	2,007 円/人	708 万円
鉾田地区	8,975 人	2,007 円/人	1,801 万円
大洋地区	5,331 人	2,007 円/人	1,070 万円
合計	17,833 人		3,579 万円

### （オ）市の負担額

先に試算した運賃収入と車両費と運行経費より、事業収支は年間 4,364 万円の赤字と予想される。

年間運賃収入	535 万円
年間車両費	1,320 万円
年間運行経費	3,579 万円
年間事業収支	▲4,364 万円

### （カ）課題

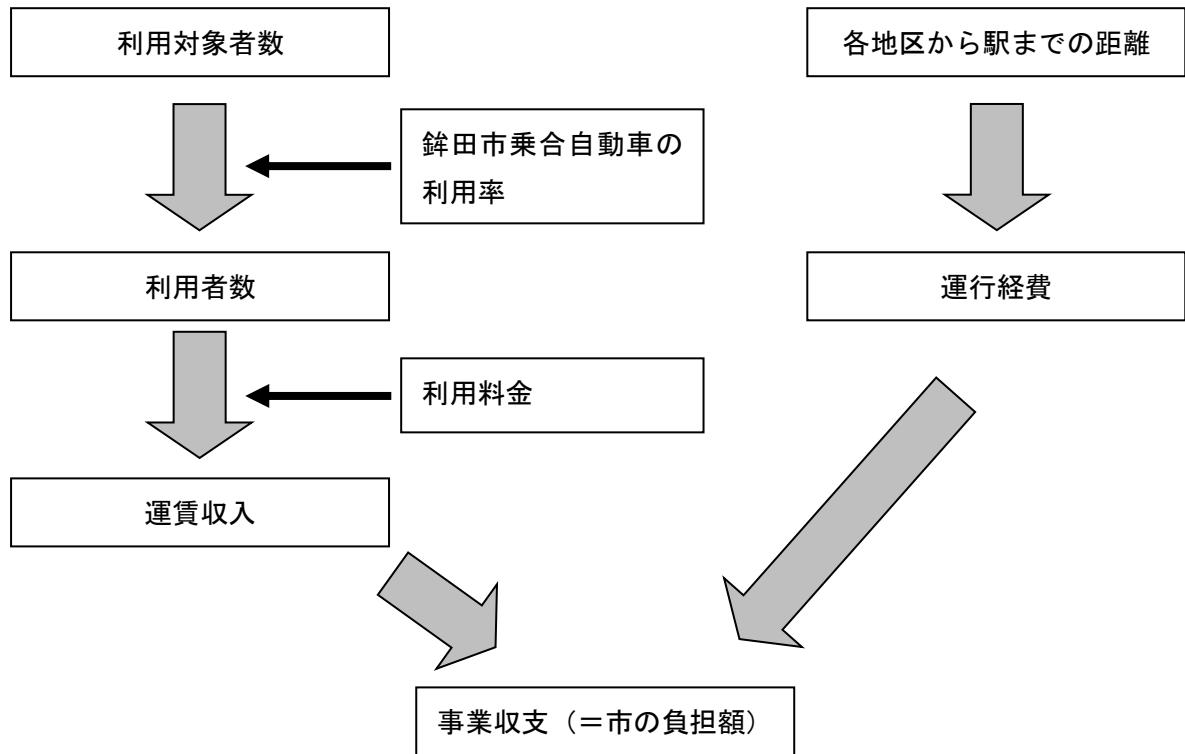
- ・地域によってはタクシー事業者数が少なく、他市のタクシー事業者に委託する必要がある。
- ・運行車両数が限られるため、予約が取れない場合がある。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### ⑥乗合自動車を一般タクシー車両と併用して導入した場合の試算

乗合自動車の予約があったときのみ、一般タクシーが乗合タクシーとして運行する方法で、乗合自動車を全市3地区（旭地区、鉾田地区、大洋地区）に導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき、試算する。

<乗合自動車を導入した場合の試算フロー>



## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （ア）利用者数の試算

銚田市乗合自動車の対象区域の 65 歳以上人口あたりの年間利用者数の率（％）（以下、利用率と記載。）は下記の通りである。

銚田市乗合自動車の 対象区域の 65 歳以上人口	銚田市乗合自動車の利用者数		利用率
5,503 人	H26 年度	5,114 人/年	92.9%
	H27 年度	6,372 人/年	115.8%
	H28 年度	5,934 人/年	107.8%
	H29 年度	5,618 人/年	102.1%

出典：H27 国勢調査の 500mメッシュデータ

これまでの利用率を参考に、今後の利用区域の拡大や利便性の改善による伸びを加味して利用率を 110%と想定し、全市の 65 歳以上人口に乗じて試算すると、年間約 17,833 人の利用が見込まれる。平日のみの運行とすると 1 日あたり利用者数は 72.5 人である。

（単位：人）	65 歳以上人口	利用率	年間利用者数	運行日数 （平日）	1 日あたり 利用者数
旭地区	3,206 人	110%	3,527 人	246 日	14.3 人
銚田地区	8,159 人	110%	8,975 人	246 日	36.5 人
大洋地区	4,846 人	110%	5,331 人	246 日	21.7 人
合計	16,211 人	110%	17,833 人	246 日	72.5 人

出典：住民基本台帳（H30.10.1 時点で抽出し、年齢要件は H31.4.1 で集計）

### （イ）運賃収入

利用料金を現況と同じ 1 回 300 円で試算すると 1 年間の運賃収入は約 535 万円となる。

	年間利用者数	利用料金	年間運賃収入
旭地区	3,527 人	300 円	106 万円
銚田地区	8,975 人	300 円	269 万円
大洋地区	5,331 人	300 円	160 万円
合計	17,833 人	300 円	535 万円

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （ウ）運行回数

1人で乗車した場合、利用者1人に対し1台を配車するため、年間17,833回の運行する必要がある。複数の利用者で乗合乗車をする、運行回数は少なくなり、4人で乗車した場合、年間4,459回の運行となる。

地区	年間利用者数	年間運行回数			
		1人乗車	2人乗車	3人乗車	4人乗車
旭地区	3,527人	3,527回	1,764回	1,176回	882回
鉾田地区	8,975人	8,975回	4,488回	2,992回	2,244回
大洋地区	5,331人	5,331回	2,666回	1,777回	1,333回
合計	17,833人	17,833回	8,918回	5,945回	4,459回

### （エ）運行経費

車両は一般のタクシー車両を併用するため、タクシー事業者が確保する。タクシーの利用料金を運行経費とする。

各地区の人口の多い500mメッシュ（H27国勢調査）から最寄り駅までの距離（道路上の距離を図面から計測）によって算出した運行料金と迎車料金（ワンメーター分）を足した1回あたりの経費は以下のとおりとなる。

	出発地	最寄り駅	駅までの距離	1回あたりの運行経費（円／回）		
				運行料金	迎車料金 （初乗運賃）	合計
旭地区	勝下	鹿島旭駅	6.9km	2,070円	670円	2,740円
鉾田地区	串挽	新鉾田駅	2.9km	900円	670円	1,570円
大洋地区	上幡木	大洋駅	4.7km	1,440円	670円	2,110円

注：運行料金は、初乗運賃2kmまで670円、加算運賃2km以後307mごとに90円加算で試算。

（出典：茨城県ハイヤー・タクシー協会ホームページ）

注：迎車料金は、迎車距離が2km以内の場合運行料金と同じ制度、2km以上の場合下限運賃が適用され670円として試算。迎車距離は駅までの距離と同じとして試算。

注：出発地や行先が異なると、1回あたりの運行経費は変わる。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

各地区の年間運行回数に、1回あたりの運行経費を乗じて年間運行経費を算出すると、1人乗車の場合年間約3,500万円、4人乗車の場合875万円となる。現況の銚田市乗合自動車と同様にタクシー事業者に運行委託する方法よりも運行経費を抑えることができる。

地区	1回あたりの 運行経費	年間運行経費			
		1人乗車	2人乗車	3人乗車	4人乗車
旭地区	2,740 円/回	966 万円	483 万円	322 万円	242 万円
銚田地区	1,570 円/回	1,409 万円	705 万円	470 万円	352 万円
大洋地区	2,110 円/回	1,125 万円	563 万円	375 万円	281 万円
合計		3,500 万円	1,750 万円	1,167 万円	875 万円

### （オ）市の負担額

先に試算した運賃収入と運行経費より、事業収支は1人乗車の場合年間約2,965万円の赤字、4人乗車の場合年間約340万円の赤字と予想される。

年間運賃収入	535 万円			
年間運行経費	1人乗車	2人乗車	3人乗車	4人乗車
	3,500 万円	1,750 万円	1,167 万円	875 万円
年間事業収支	▲2,965 万円	▲1,215 万円	▲632 万円	▲340 万円

### （カ）課題

- ・タクシー事業者は一般のタクシー事業と同時に乗合タクシー事業を行うため、一般のタクシー事業が混雑している場合に乗合タクシー事業に配車できない可能性がある。
- ・地域によってはタクシー事業者数が少ないため、他市のタクシー事業者に協力してもらう必要がある。
- ・運行経費を抑えるために、複数人での利用を促す必要がある。
- ・駅にいるタクシーを利用すると迎車料金がかからないため、駅から目的地への移動時に利用してもらい、運行経費を抑えることも検討する必要がある。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### ⑦地域が運営する移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算

#### （ア）市の負担額

地域が運営する移送サービスは、地域と市が協働で行い、利用者はガソリン代の実費負担で利用でき、市は車両費と保険費の負担を行うことを想定する。

ワゴン車かセダン車かといった車両の種類及び新車か中古車か等、また、保険内容によって費用は異なると考えられるが、市の負担額は概ね以下の額程度であると想定される。

車両費	500 万円（初年度のみ、買取の場合）
車両維持費（車検代等）	20 万円（車検の年度等）
保険費	10 万円／年

#### （イ）課題

- ・移送サービスを運営する団体が必要となる。

### ⑧病院や商業施設と連携して移送サービスを導入し、支援を行う場合の試算

#### （ア）市の負担額

病院や商業施設が運行する送迎バスに、他の商業施設や住宅地にも停車してもらい、施設を利用しない市民にも乗車できるようにすることを想定する。

市は従来の送迎バスと運行費用の差額分または運行費用の半額を負担することが想定される。

#### （イ）課題

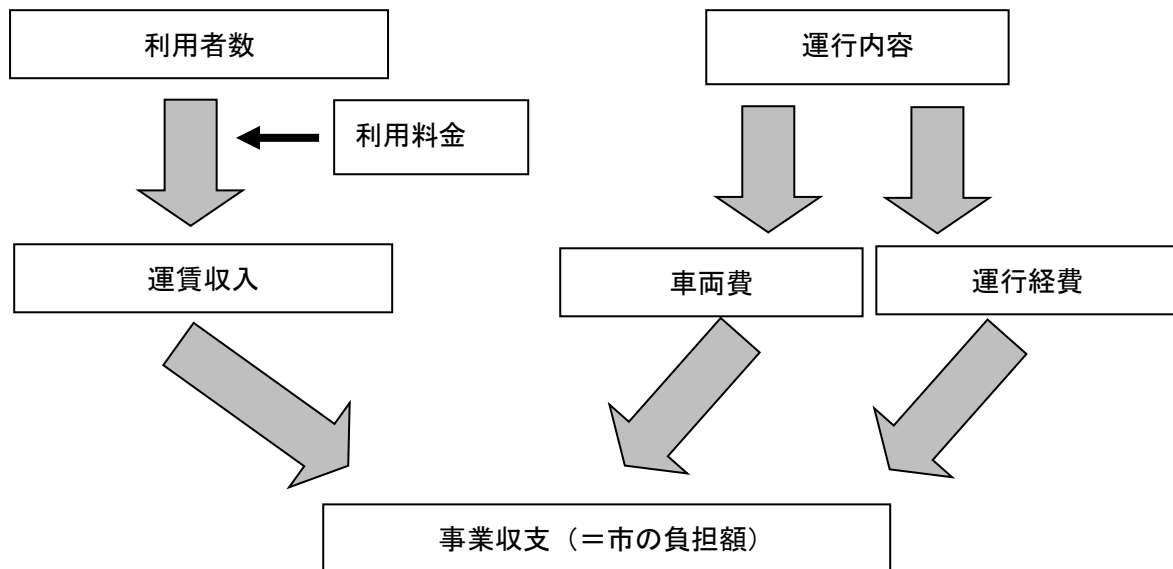
- ・費用負担や車両の保有、責任の所在等について、病院や商業施設と市の調整が必要となる。
- ・満席で病院や商業施設の利用客が利用できないということも想定して、利用方法について検討する必要がある。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### ⑨コミュニティバスを導入し、運行した場合の試算

銚田市が運営するコミュニティバスを導入した場合の市の負担額を下図のフローに基づき、試算する。

＜コミュニティバスを導入し、運行した場合の試算フロー＞



#### （ア）運行内容の仮定

公共交通会議での意見をもとに下記条件のコミュニティバスの導入を想定する。

- ・全 6 ルート
- ・1 ルート 1 往復 30km
- ・運賃は 1 乗車 300 円
- ・運行時間帯は 7：00～20：00
- ・運行間隔は 1 時間半に 1 便、1 ルートあたり 9 便/日
- ・365 日運行

#### （イ）運賃収入

全 6 ルート、1 ルートあたり 9 便/日の運行と仮定し、1 便あたり 2 人※の乗車を想定し、運賃 300 円/回とすると、1 日あたりの運賃収入は、32,400 円/日となる。

年間 365 日運行とすると、約 1,183 万円/年となる。

ルート数 （仮定）	運行便数 （仮定）	利用者数 （仮定）	運賃 （仮定）	1 日あたり 運賃収入	年間 運行日数 （仮定）	年間運賃収入
1 ルート	9 便/ルート	2 人/便	300 円/回	5,400 円/日	365 日	197 万円/年
6 ルート	9 便/ルート	2 人/便	300 円/回	32,400 円/日	365 日	1,183 万円/年

※利用者数は、鹿行広域バス神宮・あやめライン及び白帆・あやめラインの実績値の平均値を仮定。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### （ウ）車両費

運賃収入を得て運行するためには、路線バスとしての運行が原則となる。

路線バスとして運行するため、バリアフリー化が求められる。小型のバス車両を想定し、1台あたり2,000万円と想定する。

1ルート1台で6ルートを運行すると仮定して、車両費2,000万円で5年償還を想定すると、年間2,400万円/年となる。

車両数（仮定）	1台あたり車両費（仮定）	償還年数（仮定）	年間車両費
1台	2,000万円/台	5年	400万円/年
6台	2,000万円/台	5年	2,400万円/年

### （エ）運行経費

全6ルートにおいて、7:00~20:00まで1往復30kmを1時間半ごとに1便運行する仮定すると、1ルートあたり9便/日の運行となる。

運行キロあたりの経費を290円/kmと想定すると、1日あたりの運行経費は47万円/日となる。年間365日運行とすると、約17,148万円/年となる。

ルート数（仮定）	1ルートあたりの運行便数（仮定）	1ルートの運行キロ（仮定）	運行キロあたり経費（仮定）	1日あたり運行経費	年間運行日数（仮定）	年間運行経費
1ルート	9便/日	30km	290円/km	7.8万円/日	365日	2,857万円/年
6ルート	9便/日	30km	290円/km	47万円/日	365日	17,148万円/年

### （オ）市の負担額

先に試算した運賃収入と車両費と運行経費より、事業収支は年間18,365万円の赤字と予想される。

ルート数	1ルート	6ルート
年間運賃収入	197万円	1,183万円
年間車両費	400万円	2,400万円
年間運行経費	2,857万円	17,148万円
年間事業収支	▲3,060万円	▲18,365万円

### （カ）課題

- ・バス停までの交通手段の確保が必要である。
- ・銚田市は可住地が広く、広範囲を網羅するには複数ルートの設定が必要となり、運行経費が高くなる。
- ・長距離ルートは運行経費が高くなる。
- ・利便性を確保するため、運行頻度を高くすると運行経費が高くなる。
- ・車両の確保や運転手の確保、路線バスの運行委託が必要となり、期間を要する。

## 公共交通施策（案）費用シミュレーション

### 参考：鉄道駅・バス停からの距離とタクシー料金の関係

鉄道駅やバス停からの距離とタクシー料金の関係を下図に示す。

